



リサイクリングで

地球環境の未来を創る

当社のリサイクリングには、資源を回収し再利用するリサイクルの進行形「ing」と、木質資源循環の輪「ring」の意味が含まれています。

廃棄される木材がパーティクルボードに生まれ変わり住宅等に使用される。数十年後、老朽化して解体した際に、

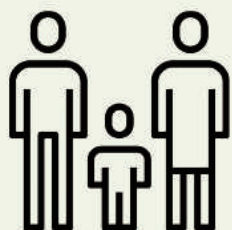
廃棄されるパーティクルボードが再び当社に持ち込まれてパーティクルボードに生まれ変わる...

“木々に永遠の生命を与え、リサイクリングで地球環境の未来を作る”

それが私たち東京ボード工業の使命です！

2023年のCO2排出抑制量：**36,341**トン

1 2023年のCO2排出抑制量を一般家庭にて1人が1年間でCO2を排出する量と比較すると...
家庭におけるCO2排出量(1人あたり)：1.841トン/年(※2019年度の計測結果) (出典：国立研究開発法人 国立環境研究所 日本の温室効果ガス排出量データ)



これは、一般的な家庭で考えると...

約1万9540人分

のCO2排出抑制量となります。

2 2023年のCO2排出抑制量をスギの木のCO2吸収量と比較すると...
※35年生のスギ1本：249.3kg (出典：国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 木1本に固定されている炭素の量)

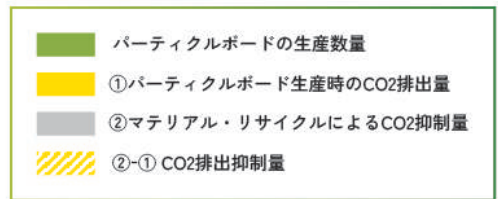
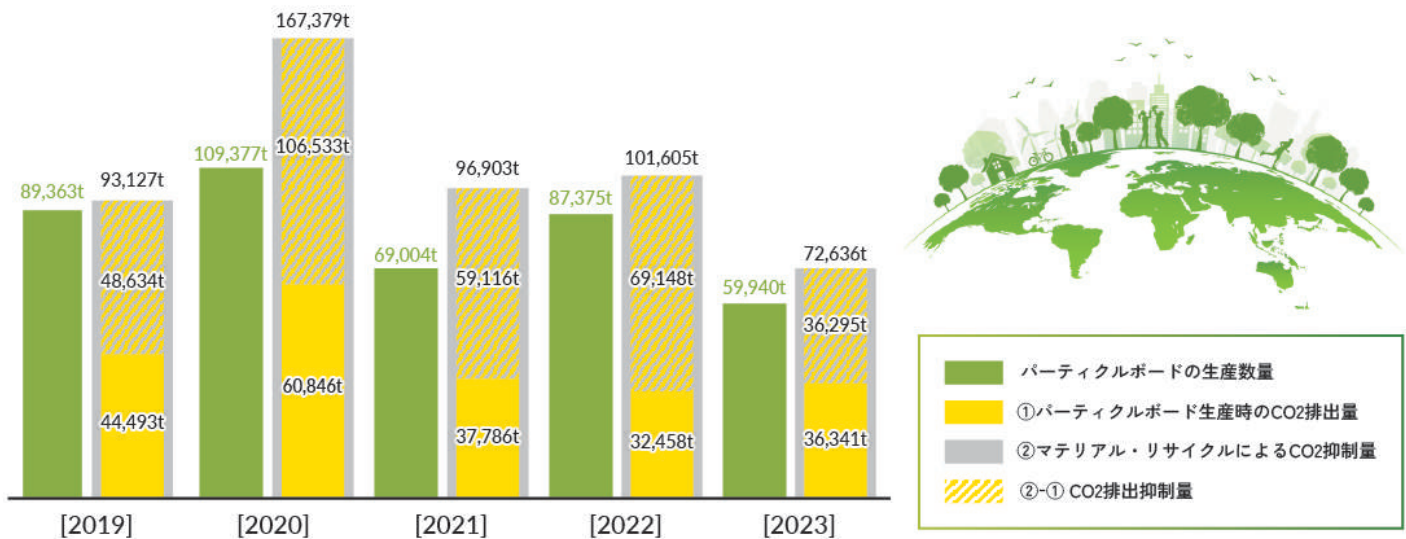


これは、スギの木に置き換えると...

約14万5700本分

のCO2排出抑制量となります。

過去5年間のCO2排出抑制量



上記グラフは、「廃木材」の再資源化による二酸化炭素の抑制量からパーティクルボードの生産活動による二酸化炭素の排出量を差し引いた結果です。なお、パーティクルボードの生産活動による二酸化炭素の排出量は、※LCA(ライフサイクルアセスメント)の手法を用いて算出しています。

当社の事業活動は、SDGsのゴールおよびターゲットに直結

「リサイクリング」で森林資源が吸収したCO2の排出量を抑制しています。

当社は、建物の解体時や、ビルやマンションの建設時等に発生する「廃木材」に着目し、1991年(平成3年)より「廃木材」を原材料としたパーティクルボードの生産を開始しました。当社のサービスは、廃棄物処理業(木くず)とパーティクルボードの製造及び販売を両軸とし、廃棄物として収集した廃木材が燃やされることなく資源として有効利用され、パーティクルボードに生まれ変わり建物等に使用されています。この「リサイクリング」は、当社の取引先である木質資源循環推進パートナーの協力により実現しています。



当社は「廃木材」を有効利用した「カーボンマイナス」事業を拡大しています。

政府は2050年までに二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの人為的排出量の合計から、植林・森林管理等による吸収量の合計を差し引いてゼロにする「カーボンニュートラル」を目指すことを宣言しました。

当社の事業は「カーボンニュートラル」の達成に向けて必要不可欠な「カーボンマイナス」事業です。

樹木は生育時、光合成によって二酸化炭素を吸収し炭素を固定して酸素を放出します。その樹木を木材として活用した後、原材料として再利用可能な「廃木材」を焼却処分やサーマルリサイクルの燃料とした場合、固定した炭素が再び酸素と結びつき、二酸化炭素となって排出されます。当社は、木材として活用した後の「廃木材」をパーティクルボードの原料として有効利用することで二酸化炭素の排出を抑制し「カーボンマイナス」に貢献しています。

※当社で実施したLCAは、ISO14040及び14044規格に準拠しています。また、第三者機関による客観的かつ専門的な立場で検証され、環境先進国であるスウェーデンのEPD国際データベースに登録されています。(登録番号：S-P-05364)

※マテリアルリサイクルによるCO2抑制量の算出は、パーティクルボードに含まれる木材の乾燥重量×50%×44/12により算出しています。